

瓜

佐保殿卅五駄 宿院卅五駄 平田卅五駄 吉田廿駄

件事六月下旬式日、七月十五日可進上之由雖下知寄事於負田牢籠并權門寄人對捍、進三分二之間、依不滿百駄、山所等請取不申行之、因之行事出納、徒於送文數日經廻、叢岳五包漬損不能會用之、慥滿本數可被糺行事歟、

〔朝野群載七攝錄家〕遣天台瓜送文

關白前太政大臣家政所

奉送瓜百駄事

右天台熟瓜會分、奉送如件、

永久四年七月日

造東大寺長官兼左中辨藤原朝臣

〔徳川禁令考四十九魚鳥野菜諸食物〕貞享三年五月

野菜もの之儀節ニ入候日より賣出之事

覺略

六月節

一真桑瓜

姬瓜

〔和漢三才圖會百蔬〕姬瓜 俗稱

按姬瓜葉花小、五六月生瓜、大二寸許、圓而淺青色、味苦不可食、熟則稍黃、雖微甘不堪食、唯小兒取之畫眼鼻口之狀、以爲覩耳、故俗名姬瓜、

〔雍州府志六土產〕姬瓜 出自九條田間、其大如梨、其色至白、故以姬稱之、女兒求斯瓜、少留莖、傳白粉於其面、以墨畫髮髮眉目口鼻、以水引結其莖、提携爲玩具、
〔倭訓栢中比二十一〕ひめうり 金鷲胥也といへり、稍大なるをかきうりといふ、野生によぶは王